

登園基準表

令和5年6月改定

こすも保育園

| | 病名 | 潜伏期間 | 感染経路 | 感染可能期間 | 主な症状 | 登園基準 |
|----|------------------------------------|----------------|------------------------------|--------------------------------|--|--|
| 1 | インフルエンザ (様疾患) | 1～4日 | 飛沫・接触 | 発熱1日前からおよそ7日間 | 発熱、全身倦怠、関節痛、筋肉痛 咽頭痛、咳、鼻汁 | 発症した後、5日を経過し、かつ 解熱した後3日を経過 |
| 2 | 新型コロナウイルス 感染症 | 約5日間 最長14日間 | 飛沫・エアロゾル 接触 | 特に発症後5日間 | 発熱、呼吸器・消化器症状、頭痛 倦怠感、鼻汁、味覚異常 嗅覚異常 | 発症翌日から5日間経過し、かつ 症状軽快後1日を経過 |
| 3 | 百日咳 | 7～10日 | 飛沫・接触 | 感染後約3週間 | 発作性咳の長期反復、持続 | 特有の咳が消失している、または 5日間の適正な抗菌薬による 治療終了 |
| 4 | はしか(麻疹) | 8～12日 | 空気・飛沫・接触 | 発熱出現1～2日前から発疹 出現の前後4～5日 | 上気道のカタル、発熱、粘膜疹コ ブリック斑 | 発疹に伴う熱が下がった後、3日 を経過し元気が良いとき |
| 5 | おたふくかぜ (流行性耳下腺炎) | 16～18日 | 飛沫・接触 | 明らかな症状を示す7日前 からその後9日続く | 発熱、耳下腺、舌下腺、顎下線の 腫脹及び圧痛 | 耳、舌、顎下線の腫脹が発現し てから5日を経過し、かつ全身 状態が良い事 |
| 6 | 三日はしか(風疹) | 16～18日 | 飛沫・接触 | 発疹出現の前後7日 | 種々の発疹、軽熱、リンパ腺腫大 | 発疹が消失したとき |
| 7 | 水ぼうそう(水痘) | 14～16日 | 空気・飛沫・接触 | 水疱発現前2～後6日 | 軽熱、被覆部に発疹、斑点丘疹状 ⇒水疱⇒顆粒状痂皮 | すべての発疹がかさぶたになっ たとき |
| 8 | プール熱 (咽頭結膜熱) | 2～14日 | 飛沫・接触 | 潜伏期後半～発症後約5日 間 | 発熱、全身症状、咽頭炎と結膜炎 の合併症 | 解熱し、主要症状消失後、2日経 過後 |
| 9 | 流行性角結膜炎 (はやり目) | 2～14日 | 飛沫・接触 | 発病後約2週間 | 発熱、頭痛、全身倦怠、目やに 結膜の炎症、眼瞼浮腫 | 治癒するまで |
| 10 | 結核 | 3～数10年 | 空気 | 喀痰の塗抹検査が陽性の間 | 咳、痰、発熱が2週間以上遷延 | 治癒するまで |
| 11 | ヘルパンギーナ | 3～6日 | 飛沫・接触・経口 | 発症から数週間 | 高熱、咽頭通、咽頭に水疱・潰瘍 | 解熱後1日以上経過し、口腔内の 水疱・潰瘍の影響が無く普段の 食事がとれること |
| 12 | 手足口病 | 3～6日 | 飛沫・接触・経口 | 発症から数週間 | 口腔粘膜・手のひら・足のうら・ お尻等に、水疱性の発疹・発熱 | 解熱後1日以上経過し、口腔内の 水疱・潰瘍の影響が無く普段の 食事がとれること |
| 13 | りんご病 (伝染性紅斑) | 4～21日 | 飛沫 | 風邪症状発現から顔に発疹 が出現するまで | 手足に網目状の紅斑、頬部の赤斑 性発疹、入浴後発疹が再発 | 発疹期には感染力は消失してい るため、全身状態がよければ登 園可能 |
| 14 | 溶連菌感染症 | 2～5日 | 飛沫・経口 | 潜伏期後半～発症後約7日 間(抗菌薬内服24時間) | 発熱、咽頭痛、扁桃腺炎、莓舌、 頭部リンパ節炎、全身に発疹 | 抗菌薬内服後、24～48時間経過 |
| 15 | ウイルス性胃腸炎 (ロタ・ノロ・アデノウイ ルス) | 1～3日 | 接触・飛沫・経口 食品媒介・便 | 症状がある時期 | 発熱、下痢、嘔吐、腹痛 | 下痢嘔吐などの症状が治まり普 段の食事が取れ、普通便にな り、主治医が登園を認めたとき |
| 16 | 腸管出血性大腸菌感 染症(O157、O26、 O111) | 3～8日 | 飛沫・経口・便 | 便中に菌を排出している間 | 激しい腹痛、頻回の水様便、血 便、発熱は軽度 | 症状が治まり、かつ抗菌薬による治療 が終了し、48時間を空けて連続2回 の検便によりいずれも陰性が確認され たとき |
| 17 | マイコプラズマ肺炎 (うつる肺炎) | 14～21日 | 飛沫 | 臨床症状発現時がピークで その後4～6週間 | 咳、発熱、呼吸困難(重症の場合) | 解熱し、激しい咳が治まり、普 段の食事ができ元気になったと き |
| 18 | 突発性発疹 | 約10日 | 飛沫・接触・経口 | 発熱中 | 高熱、3日後に全身に発疹 | 解熱し、機嫌が良く全身状態が 良い事 |
| 19 | RSウイルス感染症 | 2～8日 | 飛沫・接触 | 通常3～8日間 (乳児では3～4週間) | 発熱、鼻汁、咳嗽、喘鳴、呼吸困 難 | 呼吸器症状が消失し、全身状態 が良い事 |
| 20 | ヒトメタニューモウイル ス感染症 | 4～6日 | 飛沫・接触 | 通常1～2週間 (免疫低下時は数か月) | 発熱・咳嗽、喘鳴、鼻汁、気管支 炎 | 呼吸器症状が消失し、全身状態 が良い事 |
| 21 | 帯状疱疹 | 不定 | 接触 | | 小水疱が肋間神経に沿った形で片 側性に現れる | すべての発疹が痂皮化するまで |
| 22 | 頭ジラミ | 10～14日 | 頭皮から頭皮への 接触、衣服や 寝具を介する | 産卵から最初の若虫が孵化 するまでの期間は10～14日 | 小児では多くが無症状、頭髮の中 に虫体を確認、または毛髪にふけ のような卵の付着 | 駆除を開始している事が確認で きれば登園可能であるが、状態 によっては園の判断による |
| 23 | ヘルペス口内炎 | 3～7日 | 接触 | 水疱を形成している間 | 口内炎症、口角、口唇の皮膚粘膜 に水疱(口唇ヘルペス) | 症状が改善し、元気であれば登 園可能 |
| 24 | とびひ(伝染性膿痂 疹、皮膚化膿症) | 2～10日 | 接触 | 効果的治療開始後24時間 | 主として豆つぶ大の水疱自覚症状 (あまりなし) | 皮疹が乾燥しているか、湿潤部 位が被覆できる程度のものであ ること |
| 25 | 水いぼ (伝染性軟属腫) | 2～7週間 | 接触 | 不定期 | 球状のいぼ | 掻きこわし傷から渗出液が出て いるときは被覆すること |

*上記感染症以外でも、園の判断により登園許可書やお休みをお願いする場合がございます。予めご理解のほどお願い致します。